

マナー等について

ミニバスケットボールの競技規則の【まえがき】に、「競技が友情、ほほえみ、フェアプレイの精神によっておこなわれること」とあります。また「ゲームで勝敗を競うのは、子どもたちにとって非常に魅力的なものではありませんが、何が何でも勝つという考え方を子供達に教えこんではいけません。そして、必要な厳格さと寛容さを併せ持ち、広い視野に立って規則を理解し、子供達が何を身につけるべきかを考えて欲しい。」とあります。私たち指導者は、このことを肝に銘じ、子供達をよりよく成長させるために、ミニバスケットボールの指導を行わなければなりません。そこで以下に掲げるベンチマナーを徹底して下さい。これらのことは県大会以外の大会についても共通であることはもちろんです。

1. 監督・コーチのベンチのマナーについて

次のようなことを言うてはいけません。

- 審判(TOを含む)や相手に対して、不作法に話しかけたり、大きな声を出すこと。
- プレイに対して(ファウル！歩いた！)等の声を出したり、審判の判定に対して不作法に不服を言うこと。
- テーブルや椅子をたたいたり、蹴ったりすること。
- ゲーム中にコートの中に入ること。(選手の負傷等、特別な場合を除く)
- チームの責任者が、チームベンチを離れて指示を出すこと。
- むやみにベンチを立つこと。また、ベンチから離れること(選手も)。
- ベンチの内外を問わず、選手に対して暴力的な行為を行うこと。

このような行為に対して、審判は厳格に対処します。また、内容によっては、大会本部としても注意や警告のみに留まらず、出場停止等の重い処分をすることもあります。

2. 審判、TOへの支援について

ミニバスケットボールは、審判やテーブルオフィシャルズが未熟な場合があり、ゲーム中に判定や処置などにミスが起こることが考えられます。しかし、ベンチや観衆はそれを非難することなく、同じミニバスケットボールを育てる仲間として寛容に対処すべきだと考えます。しかし、審判やテーブルオフィシャルズは、その寛容に甘んじることなく、選手やベンチがその力を最大限に発揮できるよう、常に普段からの技術の向上に向けて努力すべきことは言うまでもありません。ご協力をお願いいたします。

3. 指導者の暴力行為について

ゲーム会場において、そのチームがゲーム中か否かを問わず、選手に対して指導者が暴力的行為を行うことは厳に慎むべきことです。これは、単に、自チーム内においての問題ではなく、児童の人権擁護と健全な育成・指導の点から、ミニバスケットボール全体に対して、大きな誤解を招く恐れがあるからです。暴力的行為が認められた場合、大会本部はそのチームに対して厳格な処置を行います。

4. 保護者等の応援について

ベンチ外の保護者の応援は、ミニバスケットボールの性格上、必要不可欠なものといえます。しかし、興奮のあまり、時に自チームの応援に留まらず、相手チームの中傷や審判の罵声が聞かれることもあります。このベンチ外の応援についてはルール上何ら規定はありませんが、ミニバスケットボールにおいては、児童との関わりにおいて、それを見逃すことはできません。また、チームの品位や、指導者の資質まで疑われることにもなります。このような点から、各チームの指導者はベンチの応援についても、十分な配慮をお願いいたします。